

# 臨床試験実施における医療機関と治験依頼者の分業と連携

—PhRMA/EFPIA Japanで実施したCRCとCRAを対象としたアンケート結果を受けて—

清水 文乃<sup>1</sup>、小山 正浩<sup>2</sup>、横山 浩貴<sup>3</sup>、松丘 隆士<sup>3</sup>、笠倉 哲也<sup>4</sup>、大矢 俊雄<sup>5</sup>、植木 進<sup>5</sup>、田中 徹美<sup>6</sup>、安井 嘉一<sup>7</sup>、岡本 誠一<sup>2</sup>、東海 康之<sup>8</sup>

<sup>1</sup>ファイザー株式会社、<sup>2</sup>MSD株式会社、<sup>3</sup>アッヴィ合同会社、<sup>4</sup>ヤンセンファーマ株式会社、<sup>5</sup>バイエル薬品株式会社、<sup>6</sup>サノフィ株式会社、<sup>7</sup>ノバルティス ファーマ株式会社、<sup>8</sup>グラクソ・スミスクライン株式会社

本演題発表に関連して、開示すべきCOI関係にある企業等はありません

臨床試験の現場では、質の高い臨床試験を実施するためにCRCとCRAは多くの業務において連携する必要があり、各々が求められる業務を実施しつつ、お互いの業務をときに支援、確認することで連携している。一方で、業務が明確に分担されないことが少なくなく、「現状」と「あるべき姿」にしばしば乖離がみられる。これらは、治験開始前からCRCとCRAが密にコミュニケーションを取り、GCPの観点から何ができ、何ができず、CRCとCRAが何をすべきで何を覚えていくべきかを十分に協議することが、CRCとCRAの適切な分業と連携に繋がり、ひいては「より良くすりを一日でも早く患者さんのもとに届ける」という原点をみつめて、質の高い臨床試験の実施を可能にするものとする。

## アンケート調査の概要

調査項目：  
① 臨床試験に関わる「書類作成」と「実施業務」におけるCRC/CRAの分担当況とあるべき姿について（選択形式）  
② 業務分担に関して治験のクオリティの妨げになっていること、治験のクオリティを高めるために協働できること（自由記載）

調査対象：日本全国のCRC及びCRA

調査方法：SurveyMonkeyを利用したWebアンケート（無記名・匿名性保持）

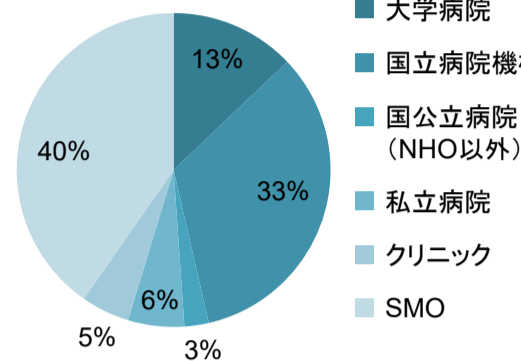
実施期間：2016/7/4～2016/8/5

回答者数：813名（CRC 278名、CRA 535名）

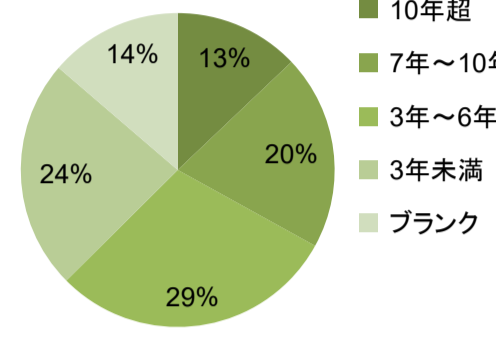
結果公開：PhRMA/EFPIA JapanのHPにて公開中

## 回答者（CRC）の背景

CRCの所属（N=278）

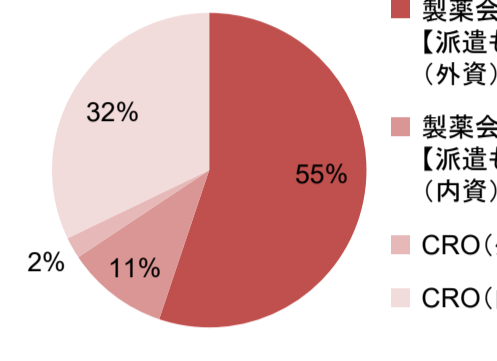


CRCの経験年数（N=278）

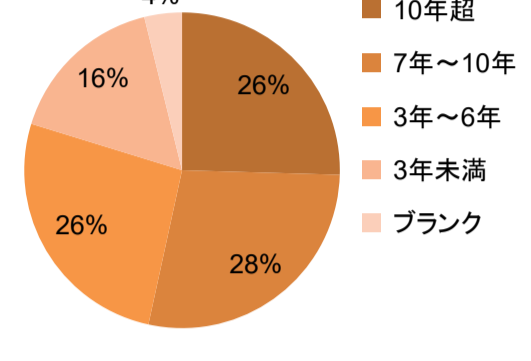


## 回答者（CRA）の背景

CRAの所属（N=535）

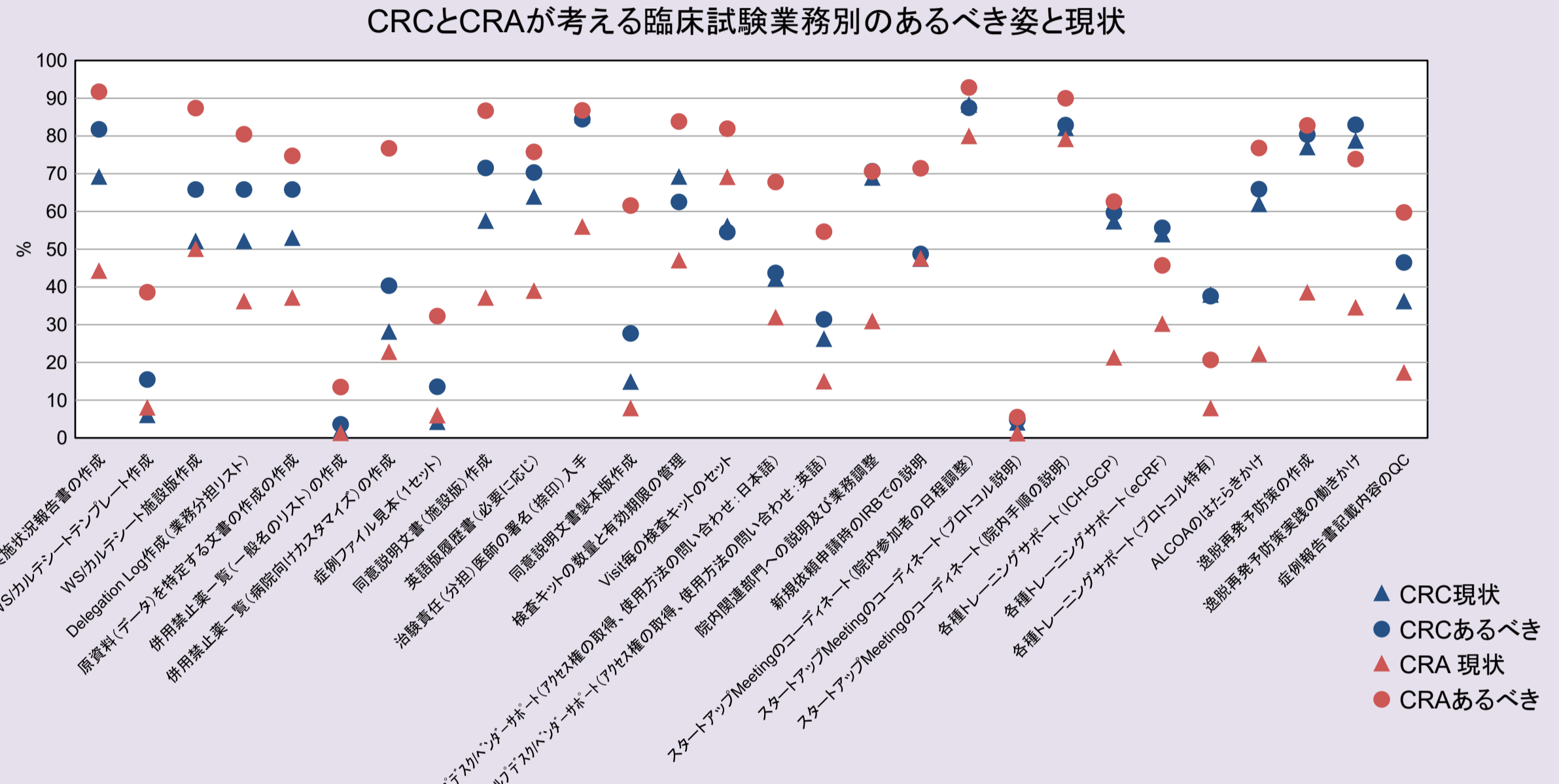


CRAの経験年数（N=535）



## CRCとCRAが考える臨床試験業務別のあるべき姿と現状

・右記に示しているのが、選択式で行われた業務の分担当況とあるべき姿をCRC/CRA別にプロットしたものです。  
・青色がCRC、赤色がCRAであり、△が現状、○があるべき姿を示しています。縦軸の％は医療機関が実施することに対する割合になります。  
・すなわち、青△は「CRCが現状で医療機関が実施している」と回答した割合、赤○は「CRAが医療機関で実施すべき」と回答した割合」ということになります。  
・例えば、スタートアップMeetingのコーディネートのうちプロトコルの説明をご覧ください。全てのマークが重なっています。これは、CRCもCRAも、また現状もあるべき姿も一致して医療機関の業務でない（すなわち依頼者側の業務である）と回答していることとなります。



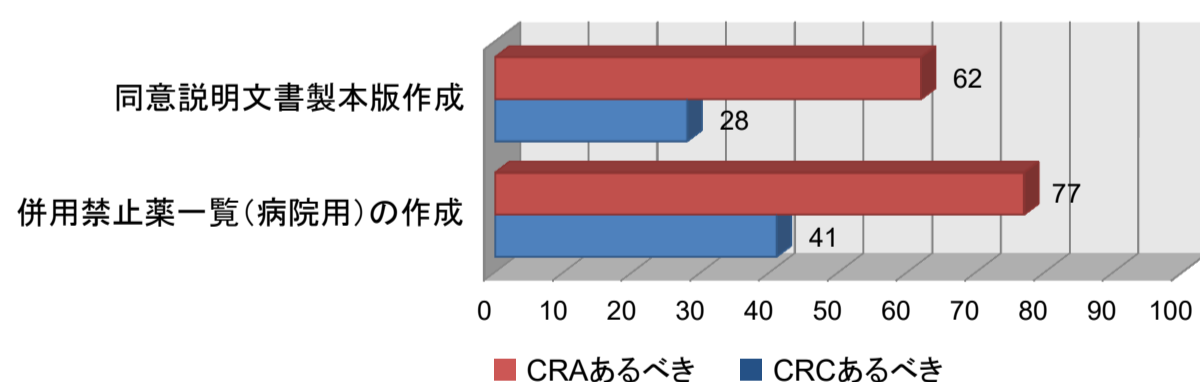
## アンケート全項目の比較からみえてくるもの

◆ 1つめは、CRCおよびCRA別に現状とあるべき姿の比較です  
□ CRC(青)については、現状(△)とあるべき姿(○)に差が見られなかった。  
□ CRA(赤)については、以下の項目において、現状(△)とあるべき姿(○)に40%以上の乖離が見られた。

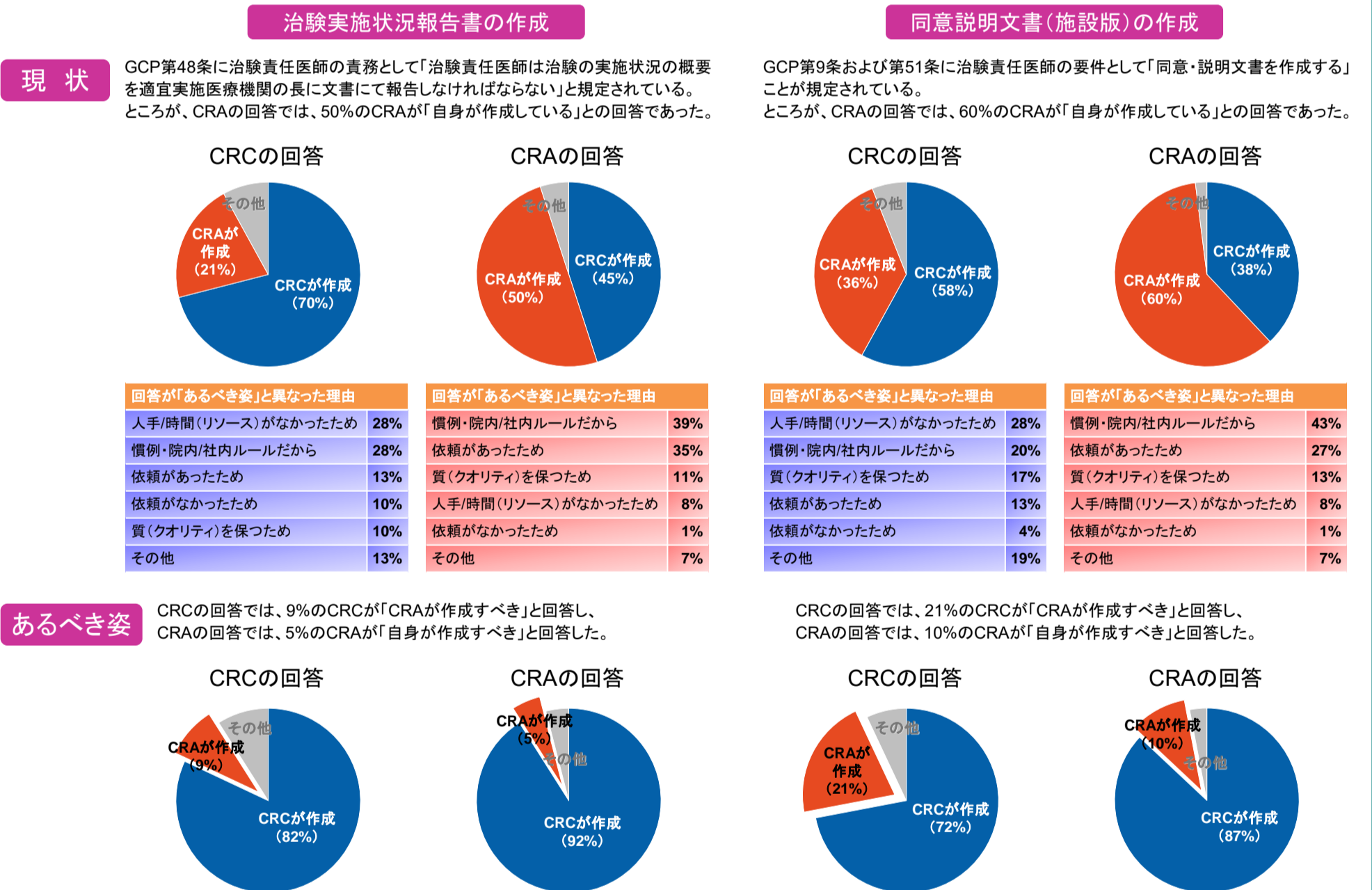
項目	現状	あるべき姿
実施状況報告書の作成	45.0	92.1
Delegation Log(業務分担リスト)の作成	36.8	80.6
併用禁止薬一覧(病院用)の作成	23.9	76.8
同意説明文書(施設版)作成	37.9	86.7
同意説明文書製本版作成	9.2	62.4
各種トレーニングサポート(ICH-GCP Training)	22.4	63.2
ALCOAの働きかけ	23.7	77.4
逸脱再発予防策の作成	35.0	74.4
症例報告書記載内容のQC	18.1	59.6

◆ 2つめは、あるべき姿について、CRC(●)とCRA(○)を比較してみました。  
□ 同意説明文書製本版の作成と併用禁止薬一覧(病院用)の作成において30%以上の乖離が見られた。

### CRCとCRAのあるべき姿に解離が見られた項目

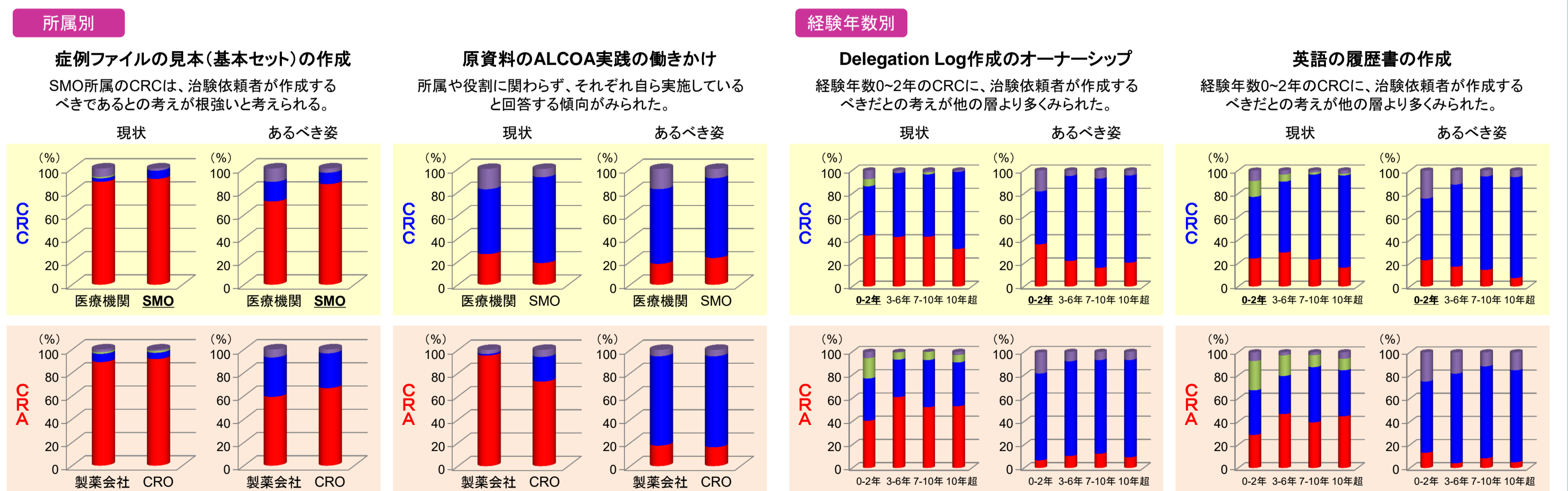


## GCPで役割が明確に規定されている項目について

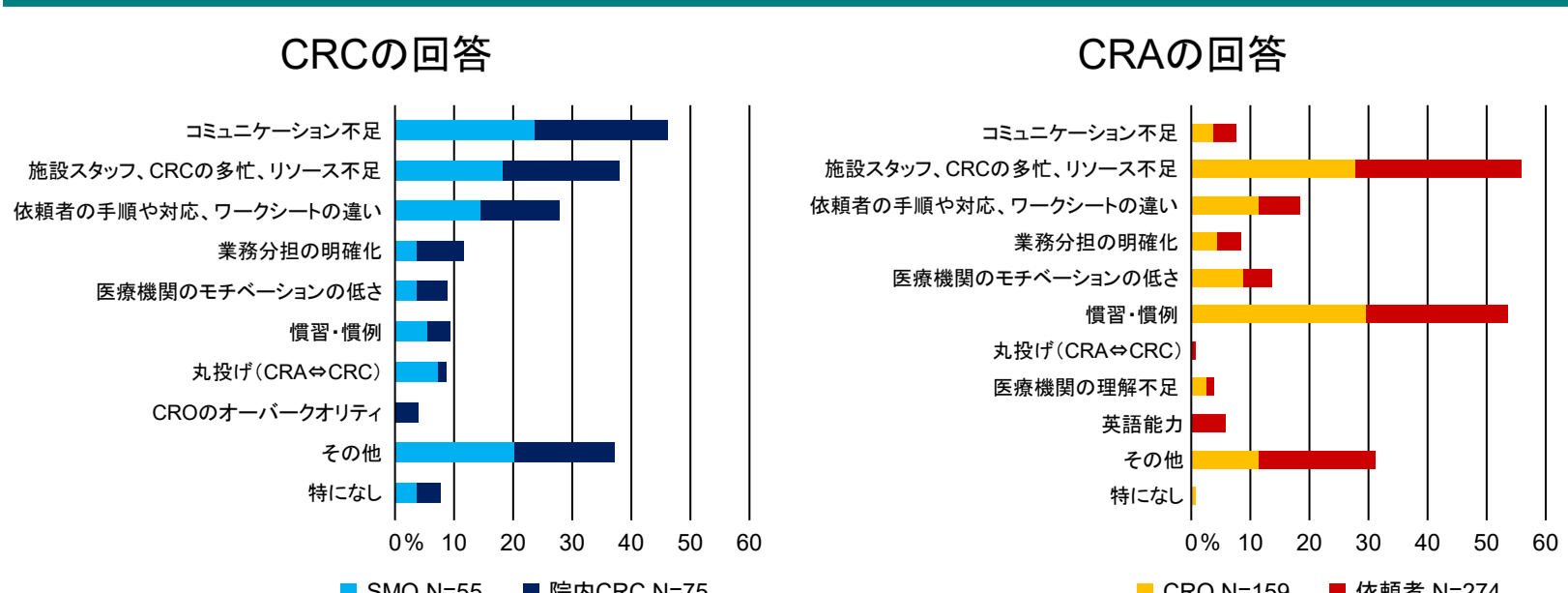


## 層別データから見えてくるもの

■: 医療機関側 ■: 依頼者側 ■: 不明(経験なしを含む) ■: 回答なし



## Quality向上の妨げになっているもの(自由記載の集計)



## まとめ

以上の結果および分析より、CRCは、現状の役割については、あるべき姿に近い状態に近づいているが、コミュニケーション不足によるQualityの低下を感じているようだ。その一方、CRAは、現状とあるべき姿に乖離を感じており、いまだ慣習・慣例にとらわれていることがQualityの妨げになっていると感じていることがわかった。今後、Quality向上のためのコミュニケーションとはどのようなものであるかも含め、コミュニケーションについて検討する必要があると考えた。また、あるべき姿について、GCP上役割が明確にされている業務でさえ、誤って理解していると思われる回答が見られたことやCRCとCRAのあるべき姿の回答に乖離がみれたことを踏まえ、あるべき姿については、すべてのCRC/CRAが同じ認識になるよう、引き続き啓発活動を行う必要があると考えている。